

に繋がった。

- ・届け先の施設の方に大変喜ばれ、贈呈式の様子を写した写真や児童からの手紙を掲示していただいたり、施設内を見学させていただいたりして、児童との交流を深めることができた。
- ・どのクラスにおいても、プランターの花を世話してくださる施設の方や花を見てくださる地域の方を意識してメッセージを考えることができた。



- ・プランターの花の贈呈後の児童の反応は、「可部っ子花いっぱい大作戦」をやってよかったと答えた児童が91%，来年もやった方がよいと答えた児童が86%であった。

今後の展開『キーワード：広げる・深める』

- ・「可部っ子花いっぱい大作戦」の意義を学校全体に浸透させるために、学校放送を活用して、活動の意味や内容を伝える時間を設定する。
- ・花を植えたプランターを届けることで、「可部っ子花いっぱい大作戦」の活動が終わるのではなく、地域を明るくするために、この活動がどのように役立っているかを飾っていただいた施設への追跡取材を通して明らかにし、そのことを学校全体に知らせていく。
- ・「可部っ子花いっぱい大作戦」の活動をきっかけにして、多くの児童が地域にある施設への理解を深めるとともに、施設で働く人やそこを利用している人との交流を深めることができるような活動にしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード：変化に対応できる特別活動』

活動の規模を大きくし過ぎたり、イベント化に走り過ぎたりすると、取り組みの形骸化を招き、過度な負担感ばかりが増大し、活動自体が長続きしません。児童の実態や地域の実情に対応できるような幅のある活動を考えることが必要です。児童・生徒にとって本当に意味のある活動なのか、地域全体に貢献できているのかなど常に振り返りながら、いつでも変えることができ、機動的に取り組める特別活動を創り上げていくことが大切です。